

厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業）
分担研究報告書

非小細胞肺癌根治術後リンパ節再発に対する放射線治療に関する研究

研究分担者 東山聖彦 大阪府立成人病センター 診療局長兼呼吸器外科部長

研究要旨

非小細胞肺癌根治術後リンパ節再発に対する放射線治療成績を検討した。1997年から2009年の非小細胞肺癌根治術後の初回単独胸腔内リンパ節再発に対し、根治照射施行(50Gy以上)の50例が対象。その内、49例が解析可能であった。治療効果は、CR:32(65%), PR:12(24%), PD:5(10%)。放射線治療後の5生率:36%, 5年無再燃生存率22%, 5年局所制御率61%。放射線治療に係わる死亡は無かった。生存に係わる因子について多変量解析を行うと、再発時無症状であり、リンパ節再発が単発であることが重要であった。以上から、前記因子である症例では、根治的放射線治療は再発治療として延命が期待され臨床的に意義がある。

A. 研究目的

非小細胞肺癌根治手術後の胸腔内リンパ節再発に対する放射線治療の意義は、未だ確立されていない。今回、胸腔内初発再発症例で、他臓器に転移の無い症例に対する根治的放射線治療の治療成績を検討し、その予後因子を明確にすることとした。

B. 研究方法

対象は1997年から2009年の非小細胞肺癌根治術後の初回単独胸腔内リンパ節再発に対し、根治照射施行(50Gy以上)の症例。これらの症例の照射後の経過を見直し、治療関連死の有無、生存率、予後因子などを後方視的に検討した。

(倫理面への配慮)

後方視的研究のため、倫理的な問題は発生しない。

C. 研究結果

上記期間に146例の胸腔内初発再発例があり、その内、全身検索の結果、同時に他臓器に転移の無い症例は67例で、それらの内、根治的照射(50Gy以上)は50例に行われた。解析可能例は49例で、治療効果は、CR:32(65%), PR:12(24%), PD:5(10%)。放

射線治療後の5生率:36%, 5年無再燃生存率22%, 5年局所制御率61%。放射線治療に係わる死亡は無かった。生存に係わる因子について多変量解析を行うと、再発時無症状であり、リンパ節再発がsingle stationであることが重要であった。

D. 考察

非小細胞肺癌根治手術後の胸腔内リンパ節再発に対する根治的放射線治療の安全性と局所治療の意義は、未だ明らかで無かった。また、どのような症例がこれらの治療により予後改善が見られるのか、不明であった。今回の症例では、同時化学療法例は6例(12%)にしか行われておらず、ほとんどの症例が放射線による局所治療である。今回の検討は後方視的研究とはいえ、肺がん術後の50Gy以上の根治照射は安全に行う事ができること、無症状でsingle stationリンパ節転移再発ならば、治療成績が良好であることをあらためて明らかにした。

E. 結論

非小細胞肺癌根治手術後の胸腔内リンパ節再発に対する放射線治療は安全で、しかも再発時無症状、リンパ節再発がsingle station例では生存率の改善につながり、局所治療としての臨床的意義はみられる。

G. 研究発表

1. 論文発表

Okami J, Higashiyama M et al., JTO
8:1417, 2013.

2. 学会発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし